

ARGENTINA



発行：(社) 日本アルゼンチン協会 編集長：松本 アルベルト **会報第41号**

〒105-0004 東京都港区新橋1-17-1 親幸ビル Tel:03-3501-4684 Fax: 03-3595-3932

E-mail: argentina@nifty.com E-mail: jam@ideamatsu.com (編集部)

印刷：株式会社イデア・インスティテュート 2003年7月20日発行

SALTA州副知事と観光局長が大分県を訪問

今年の2月、ベルナルド・ラセド・アラゴン観光局長はJICAが開催したあるセミナーに参加した。そこで、日本の大分県では、地元産業の育成と開発のために「一村一品」という地域振興策を実施し、これが県内の産品を東京や大阪など大都市で販売するきっかけになったということ、ここ数ヶ月、この運動について情報収集をしてきた。その結果、自分たちのイニシアチブと負担で、大分県へのこの視察を在京大使館と共に計画したという経緯がある。

ワルテル・ラウル・ワイヤル州副知事の目的は、この地域経済振興策について直接大分県の関係者から話を聞くということと、その実態を現地で視察することであった。大分県という地理的条件はサルタ州と類似する要件があるとみていた州副知事は、とにかくこうした試みを自分の州でもやってみたいという強い意志があったとみる。

7日間の滞在の内、約3日間大分県で過ごした。大分県の石川副知事を表敬訪問した後に

「一村一品」が最も理解されやすい大山、湯布院、安心院を視察した。亜国大使館のEmiliano Waiselfisz三等書記官によると、二人は、各訪問先で非常に熱心に話を聞き、多くの質問をしたそうである。小さな村がどのように普通の農産品を付加価値のある商品にし、生産能力を拡大し、採算ベースになったかに注目していたようである。

今の時代はいくら天然資源があっても「売れる品物にする、輸出できる品物にする」ということができなければ地域経済は栄えないということ、それを彼たちも痛感しているに違いない。また、観光地としても有名な湯布院は、観光開発の手本でもある。たくさんのヒントをサルタ州の発展のために活かしてもらいたい。

大分県での視察を終えて、東京ではジェトロの貿易開発部対日輸出課の山本課長代理とミーティングし、意見交換を行った。その他、外務省の中南米局やJICA-国際協力事業団等、重要な関係者と会談した。

※Salta州はアルゼンチンの北西部に位置し、155,400キロ平方メートルで人口が107万9千人である。ペルーで栄えたインカ帝国の影響も受け、スペインからの独立の際は、北部の抵抗拠点になった。フォルクローレ等独自の文化も形成し、empanada salteñaやlocroという料理やCalafateのワインは非常に美味しく、有名である。 URL <http://www.turismosalta.com>

アルゼンチン産の刺身用 冷凍エビが大手スーパーで



5月頃、いつも買い物に行く近くのスーパー、イトーヨーカドーで「刺身用冷凍エビ-アルゼンチン産」を見た。感動と驚きのあまり、6尾買ったが、後からどのように輸入されたのかと思ってしまった。「刺身用」だから空輸なのだろう。いずれにしても、地球の裏側で新鮮なアルゼンチンのエビを食べられるとは夢にも思わなかった。

松本 J. アルベルト

※会員の皆様、アルゼンチンのちょっと珍しいものを日本で見かけましたら、どうか当協会までご一報ください。

ホームページ開設準備中

団体の紹介、役員構成、目的、主な事業、会報に掲載されてきた主な記事等、会報の目次(過去3年間の)、そして日本やアルゼンチンに関する主な内容はスペイン語でも掲載する予定です。現在、データの整理を行っている最中です。会員の皆様からこの構想に対して提案を出していただきたいと思えます。9月に開設予定。

HP担当：松本 J. アルベルト
E-mail: jam@ideamatsu.com

アルゼンチンのレモンとグレープフルーツが日本のスーパーに陳列

8年近くの交渉の後、ようやく日本でもアルゼンチンのレモン、グレープフルーツ、そしてバレンシア種オレンジを食べることができるようになりました。8月頃には第1回目のコンテナが到着することになっており、スーパーで買い物をする際、ちょっと意識して探してみてください。



日本は年間50万トン近くの柑橘類を輸入しており、そのほとんど(数年前は9割以上)がアメリカからのものであったが、ここ数年オーストラリア、南アフリカ、チリ等からの輸入が増えている。

日本の検疫当局からの承諾は今年の5月25日に決定されているが、一番のポイントは輸送中に「地中海ミバエ」が発生しないようにコンテナの温度を一定の期間固定することだと、ここ数年このテーマを担当してきた在京亜国大使館のマルセロ・チェサ(Marcelo Cesa)二等書記官は話している。レモンの場合、19日間2.2度以下に、グレープフルーツは同じ期間2.3度以下、そしてオレンジは21日間2.2度であり、この冷温処置を行う際果実内の温度は1.9度を超えてはならないという細かい規定が要求される。

多くのレモンやグレープフルーツ、オレンジは、アルゼンチン北東部と北西部で収穫されるものであり、地域経済からの期待も大きい。2000年の統計によると、グレープフルーツの年間生産は21万トン(世界の5.5%で5位)、レモンのは100万トンで世界2位(11%のシェア)である。2002年には、1億3千万ドル相当の果物を輸出しており、ジュースや加工品を含むと2億4千万ドルにも及ぶ。

8月に到着する第1回目のオーダーは150トンぐらいであり、1~2年の間に2~3千トンを目指しているようだ。

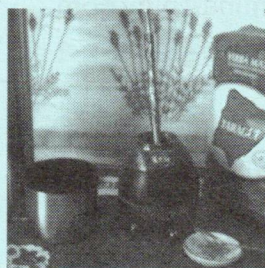
(取材協力：亜大使館のチェサ書記官)

※ 日本のレモン輸入先と量(2002年度)：米国から6万5千トン(73%)、チリから1万5千トン(17%)、南アフリカから4千トン(4.7%)、オーストラリアから2.2千トン(3%)。
グレープフルーツ：米国から22万トン(77%)、南アフリカ

5万2千トン(18%)、イスラエル5千トン(2.6%)。
オレンジ：米国8万トン(76%)、オーストラリア8.7千トン(8.4%)、南アフリカ8千トン(7.7%)、チリ5千トン(4.7%)、スペイン1.6千トン(1.6%)。

+++++

MATE (マテ) 茶



アルゼンチンへ旅行、又は仕事で滞在した人は必ず、mate茶を飲んだことがあるに違いない。アルゼンチンでは、ボンビージャというストローとmate壺というものを使用し、回しながら何人かで飲む習慣があるが、一人で音楽を聴いているときや読書しているときも案外あきない良い友になるのだ。現地ではmate茶に含まれている成分や効能ということをあまり意識していないが、食卓に牛肉が多いこともあってこのmate茶を飲んでいれば植物繊維等が摂取できるということで「飲むサラダ」としても知られている。

時々当協会にも「どこでmateの茶葉を購入できるのか」という問い合わせがあるが、日本でも購入もできるし、mateに関する情報もインターネット上にはいろいろある。また、昨年3月には、JETRO-日本貿易振興会が非常に分かりやすいイラスト付きの「マテ茶を知っていますか」というタイトルで冊子に関係者向けに出している。食品関係の展示会でも試飲会を行っており、FABEX2002(02年度「惣菜デリカ・弁当・外食専門展」)では、料理研究家の中村典子さんのユニークな発想でマテ茶を使用して「マテ粥」や「マテ茶寒天黒蜜かけ」というメニューを紹介している。



最近ではハーブティーとしても注目をあびており、多くの専門書籍にも掲載されている。そして、一部では健康食品として錠剤にした形で販売している業者もいる。大量に輸入されていないこともあって、まだ高価格であり、アルゼンチンで飲むように壺に入れてストローで飲むということはあまり経済的ではないが、お洒落なポットに入れて「上品な味で健康的なハーブティー(mate cocido)」として親しみ飲んでいただくことは十分可能である。

マテ茶に対する詳しい情報、効能やミネラルの含有量等、下記のHPを参照。

<http://www.embargentina.or.jp/keizai/keizai.html> (亜国大使館)
<http://www.matecha-kyokai.gr.jp/> (マテ茶協会)
<http://jalapeno.netfirms.com/> (業者)
<http://www.am-c.co.jp/matecha/index.html> (業者)
<http://www.matesdebuenosaires.com.ar/> (亜国でのサイト)
<http://www.mrmate.com.ar> (San Telmoにあるタンゴやフォルクローレを学べるマテ茶専門の店。マテ茶に合うケーキやお菓子も出してくれる)。

※「マテ粥」や「マテ茶寒天黒蜜かけ」等のレシピは当協会にあります。ご希望の方はお問い合わせください。FAXでお送りします。

※ マテ茶はアルゼンチンだけではなく、隣国のパラグアイ、ブラジル、そしてウルグアイの飲み物でもあるので、最近ではブラジル産のMate茶も日本で販売されています。

茨城県長田小学校との70年間の友好関係



6月7日(土)、当学校のアルゼンチン友好70周年記念式典が行われた。その際、在京アルゼンチン大使館からはハム大使、ルビオ・レイナ公使(領事担当)、カペリ公使(金融担当)、津村クリスティーナ秘書、当協会からは

木島常務理事、中野常務理事、山下美里秘書らが出席した。

小学生数人がアルゼンチンのフォルクローレを踊ったが、これには、フォルクローレの先生、長野太郎夫妻が事前に指導に当たったのである。最後には、記念にセイボを植樹し、式典の閉めには参加者全員が“Zamba de mi Esperanza”を合唱した。

(写真：ハム大使の祝辞)

「アルゼンチンはどうして強いのか」 - チーム付きの通訳として

松本J. アルベルト

アルゼンチンのサッカー代表チームが来る度にこの会報にいくつかの記事を書いてきたが、今回はチーム付きの通訳としての感想を述べたい。

私はアルゼンチンで生まれたがほとんどサッカーはやったことはなく、プロの試合は一度リバープレート(River Plate)のスタジアムに行っただけである。めずらしいことかも知れないが、アルゼンチン人だからといってみんなが熱狂的なサッカーファンだとは限らないのである。4年に一度行われるワールドカップが例外で、その時は国をあげてみんなが応援するのである。

日本に来て、仕事上何回か国際試合を観戦することができ、昨年ワールド杯のときにもコスタリカのリエゾンとして「臨戦態勢」にあったが、韓国で一次リーグ戦で敗退したため任務に付くことはなかった。

そして、今回キリン杯のため、あのSeleccionado NacionalがBielsa監督の下またやって来たのである。キリン杯は親善試合なので、関係者はリラックスしてくるのではないかと考えていたが、実際、近くでサポートする通訳としては初日から緊張の連続であった。再任された監督は、この機会にヨーロッパの一流リーグでプレーしている若手選手を調整するために通常の二日前現地入りを六日前入りに変更し、長期キャンプを実施したのである。毎日の訓練には様々なメニューがあり、偵察活動で得た情報をもとに毎日のように日本人選手を想定して厳しいトレーニングを行った。ガンバ大阪とセレッソ大阪の若手選手を借りてこうしたメニューを和歌山市の紀三井寺球技場で行った。

食事や健康管理も厳しく非常に規則正しい生活を送り、さすがにプロのチームというだけの心構えを実感した。通訳3人体制で対応に当たったが、並大抵の仕事ではなく、毎日のように色々な挑戦が突きつけられた。日本サッカー協会や一部の業務を委託されているジャパンスポーツプロモーションのスタッフも大変ハードな仕事に耐えた。良くあそこまでひとつひとつクリアできたなどは感心する次第である。

約10日間の任務を終えて、私は体力的には疲れを感じていたが充実感の方が大きかった。やはり世界一流のチームに付いたということは誇りであり、実績であると感じている。彼等は、親善試合だと一度も思っていなかったように思える。はじめから、勝つことは当たり前であっても、ベストのチーム作りが目的だったのである。目的を果たし、Bielsa監督が率いるチームは南米予選や次の地域トーナメントやワールド杯に向かっているのである。

(写真：Solari,Saviola,J.Fernandez(マッサージ師),Placente,Heinze,Romeo選手らと。出発日、大阪帝国ホテルにて)





サンタクルス州のキルチネル知事が大統領に就任。キルチネル新大統領は公共投資拡大による経済再建と雇用の創出を掲げて国内重視の方向を打ち出し、外交面ではメルコスルやブラジルなど近隣諸国との関係強化に力点を置いた外交スタンスを明らかにしている。これから本格的に開始される新政権のIMFとの支援交渉と民間債権者との債務交渉の成り行きが注目される。

(写真：大統領府 Casa Rosada)

■「キルチネル新大統領就任」

大統領選挙は4月27日に行われた第1回投票で決着せず、得票率1位のメネム候補と2位のキルチネル候補が5月18日の決選投票へ駒を進めた。しかし、その後実施された世論調査でメネム候補の支持率が伸びず20%台に止まる一方、キルチネル候補の支持率は60%台に上昇、支持率に大きな差がついたメネム候補は出馬を辞退し、その結果、キルチネル候補が決選投票を経ることなく第52代アルゼンチン大統領に就任した。

キルチネル新大統領は5月25日に行われた就任式での就任演説で、90年代の政策が貧困の拡大、国の崩壊、巨大な対外債務負担を招いたと厳しく批判、アルゼンチン独自の資本主義を再構築することにより、これが社会を向上させる原動力を生み出すとの理念のもと、雇用の拡大と所得配分の改善、教育、保健及び住宅に関する社会的不平等の是正、法的保障と違法行為に対する取締り強化、治安問題などを重点施策として掲げ、又、対外債務については国民の困窮と社会の混乱を代償に返済を再開することはできないとして、元本削減、金利減免、期限の延長を求めており、国内重視を鮮明に打ち出している。

外交面では、メルコスルの強化とこれをラ米諸国に拡大していくという方針を打ち出すとともに、米国、EUとは成熟した関係を構築したいとし、米国、EUとの関係にも配慮している。尚、新政権の閣僚にはドゥアルデ前政権から4名が留任し、前政権の政策を継承するスタンスが示された一方、サンタクルス州知事時代の側近4名を起用、左翼系労組に受けの良い閣僚も任命され、広く国民の支持を得ることを目指していることが伺える。

■「キルチネル大統領が大統領就任後初の訪問国としてブラジルを訪問、メルコスル強化や共通通貨創設などについて協議」

6月11日、キルチネル大統領は、大統領就任後初の訪問国であるブラジルでルーラ大統領と首脳会談を行い、両国が加盟するメルコスルの強化などについて意見の一致を見た。具体的には「メルコスル議会」設立のための制度的枠組みや、共通通貨の発行を検討する専門の二国間機構設置に向けた検討の開始などを含め、31項目の共同声明に調印した。

■「市場動向」

為替市場ではペソ高の流れの中、5月6日には更なる為替管理緩和策が出され、又、中銀のドル買い介入も頻繁に行われたにも拘らず、輸出為替を主体としたドル売りに対するドル買い需要の低迷でペソは引き続き強含みで推移。5月14日にキルチネル候補の大統領就任が確定したことで、市場は一時的に様子見の状態となりペソ安に振れたが、6月に入り1ドル=2.85ペソを割り込むと、IMFとの支援交渉進展の期待も相俟って、ペソの上値を試す展開となり、1ドル=2.80ペソを割り込む場面もあった。外貨準備は3月末の105億ドルから6月30日には121.8億ドルに増加している。株式市場ではMERVAL指数が4月16日以降600ポイントを超え、大統領選挙の行方を睨んで一時的に下げる場面もあったが、キルチネル新政権の経済政策に対する期待感から6月に入ると更に700ポイント台に上昇し、1997年10月以来の高値で推移している。6月23日には805.54ポイントを付けたが、26日に発表された海外からの投機的な短期資金の流入に対する規制を受け、6月末は765.61ポイントで引けた。

■「ペソ高基調で為替規制を一段と緩和、又、市場攪乱要因となる投機的短期資金の流入を規制」

○5月6日、アルゼンチン中銀は通達A3944を公布し、為替規制の更なる緩和を実施した。今回の規制緩和の主な内容は次の通り：

- ・ 輸出関連取引のペソ転換について、ペソ口座入金期限（15営業日）に加え、別途90日の猶予を与える（変更前：30日）
- ・ 輸出代金のペソ転規制について、中銀への外貨売却義務を廃止する（変更前：1百万ドルを超える輸出為替は中銀を通じてペソ転）
- ・ 財の輸入に係る対外債務については、返済期日に係らず期限前返済を認める
- ・ 1社（1人）当りの外貨購入上限を月間500千ドル相当に引き上げる（変更前：300千ドル）

○ 6月30日には中銀通達A3973で、金融機関を除く民間部門の対外債務について、一定条件を満たしている場合、期日前15営業日以内に元本返済を行えることになり、又、市場の攪乱要因となる投機的な短期資金の流入を規制する目的で大統領令285/2003が公布され、外国から流入する資金は、貿易取引及び直接投資に関わるものを除き、最低180日間国内に滞留することを義務付けた。

■「貿易収支は引き続き大幅黒字で推移」

貿易収支は今年1～5月の累計黒字額が6,957百万ドルとなり、引き続き大幅黒字を計上している。輸出が好調に推移しており、5月の輸出と貿易収支は過去最高を記録。一方、輸入については2月の実績が2001年4月以来21ヶ月振りに前年同月比で増加に転じ、ようやく回復の兆しが伺えるようになった。

	03/1月	03/2月	03/3月	03/4月	03/5月	累計
輸出	2,126	2,072	2,222	2,469	2,756	11,645
輸入	798	777	924	1,108	1,082	4,688
貿易収支	1,328	1,295	1,298	1,361	1,674	6,957

(単位：百万ドル)

■「2003年第1四半期の工業生産指数は前四半期比+7.8%で、4四半期連続で増加」

4月25日の国家統計調査院（INDEC）発表によると2003年第1四半期の工業生産指数は前四半期比+7.8%となり、4四半期連続で増加を記録した。産業別では繊維および金属機械部門の伸びが大きく、アルゼンチン経済はリセッションから抜け出し回復基調にあることを裏打ちするものと当局は見ている。

■「5月の消費者物価-0.4%で17ヶ月振りにマイナスを記録」

国家統計調査院発表の消費者物価上昇率は3

月+0.6%（前年同月比+31.7%）、4月+0.1%（同+19.4%）で、5月は-0.4%（同+14.3%）となり2001年12月以来17ヶ月ぶりに消費者物価が下落した。卸売物価は3月-0.6%（前年同月比+62.3%）、4月-1.9%（同+32.8%）、5月は-0.7%（同+17.4%）と3ヶ月連続のマイナスを記録している。今年度に入ってから累計は消費者物価が+2.1%、卸売物価が-2.4%。物価上昇が減速した要因は主に為替相場がペソ高で安定推移しているのと、飲食料品価格が下がったことが挙げられる。

■「2003年第1四半期の経済成長率+5.4%」

6月19日の国家統計調査院発表によると、2003年第1四半期の実質GDP成長率は前年同期比+5.4%となり1998年第3四半期以来のプラス成長となった。前四半期比では+2.4%であった。アルゼンチン経済は、最悪期を脱し、穏やかながら回復局面にあることを示す結果となった。尚、6月2日にはラバーニャ経済大臣が今年の経済成長率の予測を4.5%から5%に上方修正すると述べている。

■「IMFとの支援交渉状況」

本年1月にIMFと合意した暫定融資プログラムに基づく第2回レビューの結果が6月20日のIMF理事会で承認された。7月初旬には第3回レビューが行われ、現行暫定融資プログラムの期限が到来する8月までに新たな協定を締結すべく、本格的な交渉が始まる予定である。尚、アルゼンチンを訪問中のIMFのケーラー専務理事は6月24日、構造改革を進めるには3年間の中期支援プログラムの実施が必要であり、短期もしくは現行の暫定融資プログラムを延長する考えは無いと述べた。又、アルゼンチン政府が進めるべき構造改革として、1) 州政府の財政収支の改善、2) 金融システムの強化、3) 海外からの投資誘致のための法的措置を挙げた。

(しおみ けんいち、当協会理事、東京リサーチインターナショナル研究理事) <http://www.triltd.co.jp>

スペイン語圏の「外国法事務弁護士」

Dr. Miguel Montoro (ミゲル・モントロ)

Montoro氏は、スペインのバルセロナ生まれである（1965年）。Alcalá de Henares大学法学部を卒業、Balears弁護士会に登録。1993-94年博士課

程を得て、「国の構造改革」という研究論文を発表した。95年から96年の間、欧州委員会のエグゼクティブ研修プログラムで日本に滞在、日本語の集中研修も受ける。1996年、長島・大野法律事務所（東京）で実務研修を行い、2001年に日本の法務省から「外国法事務弁護士」の認定を受け、横浜弁護士会に登録されている。スペイン語圏でははじめての例である。現在、ブラジル国籍の弁護士が二人いるが、スペイン国籍ではMontoro氏が始めてである。

本国と関係する国際私法、投資、会社設立、ジョイントベンチャー、業務提携、特許申請手続き等の業務を行っている。また、スペインや中南米で活動している日系企業に対しても法務サービスを提供したいと話している。

詳しくは、

MONTORO外国法事務弁護士事務所

Tel: 03-3516-7766

Fax: 03-5204-0346

E-mail: montoro@nifty.com

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町3-2-18

+++++



スペイン語初級用の教材を紹介

「¡Hola amigos! たのしく学ぶスペイン語」
イスパニカ編 吉田 理加著 三修社

本書は有線放送USEN440(www.usen440.com)およびCS放送・サウンドプラネット(www.usen.cs.com)のスペイン語講座「オラ、アミーゴス入門編」のテキストに加筆し、一冊の本にまとめました。 定価：2,500円

本書は、入門時に、会話ですぐ使える自然な表現をそのまま覚えることができるようにデザインしてあります。相手が言ったことが分からなかった場合や、聞き返したい時等、このような困った場面を乗り切るテクニックもふんだんに取り上げています(CD-Rom付き)。

本書の特徴

- ・ アルファベット、発音やアクセントから様々なシチュエーションでの会話まで、スペイン・中南米両方のスペイン語を丁寧に紹介しています。
- ・ 初めてスペイン語を学ぶ方を対象にしていますが、既に学習経験はあるけれども会話が苦手と言う方にもぜひお勧めしたい本です。
- ・ すぐに使える表現と語彙に焦点。言葉を学ぶ

自衛艦乗船クルーズ

晴海埠頭から自衛艦乗船による東京湾クルーズ (イメージ写真)



護衛艦への一般人の乗艦は、海上自衛隊のPRの一環として1年に1回行われるものですが、乗艦できる人数は限られており、今年は日本アルゼンチン協会のための50名の枠を確保して頂きました。しかし、締め切りの6月20日までに65名が応募してきましたので、交渉の結果、全員乗艦することになりました。

乗艦は、7月27日(日)午後4時30分東京晴海出航で午後6時ころ横須賀着になります。

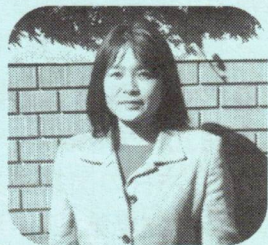
講演：「アルゼンチン新政権発足後の政治情勢展望」

6月9日(月)、当協会は、上智大学のイベロアメリカ研究所との共同開催で、神戸大学大学院の松下洋教授(当協会理事)を講師として上記講演会を上智大学で開いた。

新政権に対する課題と可能性を今までの歴史的背景を分析して講義されたが、87名が出席した。Kirchner政権の発足もあって、アルゼンチンに対する関心が高くなっていることを物語っている。

楽しみは、その言葉を使ってコミュニケーションをとることにあると思います。入門レベルでは、まず会話パターンを習得して、それをそのまま使うことに重点をおいています。つまり、一つ、一つの文を学習するのではなく、相手とのやりとりを想定した会話を学習することができます。

・ **文法のポイント:**文法事項の解説が各課にまとめてありますので、会話表現を学んだ後、疑問に思った点を参照できます。



吉田 理加

定価：2,500円 (+消費税)

当協会会員向けへの割引価格 20% OFF
2,500円が**2,000円**+消費税(100円)+送料(300円)
= 2,400円(送料込みの価格)

注文は、当協会に。

Tel:03-3501-4684 Fax:03-3595-3932

* この特別価格での販売は数に限りがありますので、どうかご了承ください。

総会、新役員を紹介

5月30日、在京アルゼンチン大使館の御好意で、大使館で総会が行われ、平成14年度の業務報告、会計報告、そして新役員への推薦及び信任が行われ29名が任命された。空白になっていた会長職も決定された。また、平成15年度の事業計画案、新体制の仕組み、ホームページ開設等、新たな試みなどについて説明が行われた。

日本アルゼンチン協会 役員名簿 2003年5月 (ABC順)

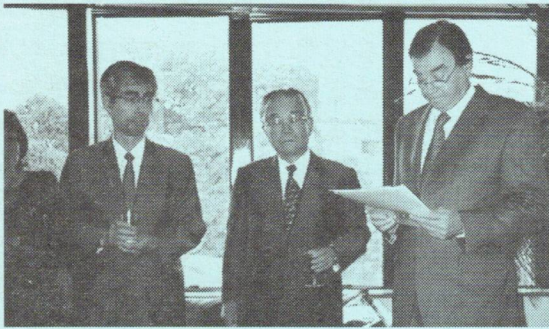
会長	土屋義彦	全国知事会会長	元参議院議長
副会長	藤本芳男	元駐アルゼンチン大使	
副会長	友國八郎	株式会社商船三井	相談役
常務理事	木島輝夫	前 駐アルゼンチン大使	
常務理事	中野恵正	ナカノ・アソシエイト	代表取締役 (元三井物産)
常務理事	河崎 勲	ダンコム・ジャパン	代表取締役 (元NHK)
理事	東 直樹	住友商事株式会社	市場業務部長
"	藤森康雄	三井物産株式会社	経営改革企画部海外室長
"	イレーネ賀集	弁護士 (アルゼンチン)	翻訳業
"	林屋永吉	元駐スペイン大使	
"	星野 守	三菱商事株式会社	地域総括部 米・欧州・中東チームリーダー
"	石川浩司	元日本興業銀行、和光経済研究所	副社長
"	寿岳和子	(財)日本科学技術振興財団	理事
"	風間孝晴	元国際協力事業団	理事
"	小林晋一郎	東京リサーチインターナショナル	客員研究理事 (元東京三菱銀行)
"	桑田芳郎	株式会社日立製作所	代表取締役副社長
"	京谷弘司	作曲家、バンドネオン奏者	
"	的場博子	SADAIC	日本代表
"	アルベルト松本	(資)アイデア・ネットワーク	代表取締役社長
"	松下 洋	神戸大学大学院教授	
"	守戸一清	元三井物産常務取締役	
"	西岡 稔	元ダイビル株式会社	専務取締役 (元商船三井)
"	小宅庸夫	元駐アルゼンチン大使	
"	佐藤博之	株式会社商船三井	代表取締役専務取締役
"	塩見憲一	東京リサーチインターナショナル	研究理事 (元東京三菱銀行)
"	篠澤恭助	国際協力銀行JBIC	総裁
"	宍戸和郎	国際協力銀行JBIC	国際金融第3部次長、元ブエノスアイレス首席駐在員
"	高垣 佑	株式会社東京三菱銀行	相談役
"	豊田潤一	株式会社インフォセック	代表取締役社長 (元三菱商事)
監事	長松義人	東京三菱銀行	中南米部長
"	安田直弘	株式会社 安田	代表取締役
顧問	薄井 康夫	当協会	元専務理事
	野村 秀治	当協会	前理事長

特別名誉会員 アルベルト・ハム大使 Embajador S.E. Alberto E Ham Miembro Honorario Especial

友國副会長の総会での野村前理事長に対するコメント：「野村秀治理事長は、本年3月31日をもって理事長を退任されました。野村さんは、専務理事時代と通算しますと、8年間当協会のために尽力されました。この間、渡部透前事務局長の協力を得て、協会財政の健全化に尽くされました。また、日亜修好100周年の際は、組織委員会の要請を受けて「日本アルゼンチン交流史」の編纂を引き受けられ、また会員の津島勝二さんの翻訳された「日本海海戦アルゼンチン観戦武官の記録」の出版の労をとられました。さらに、ブエノスアイレスの日本語学校「日亜学院」の中に、「秋篠宮文庫」を創立するために主導的な働きをされました。専務理事時代を含めての長い間の協会活動に対する貢献に感謝の念を捧げたいと思います。今後とも、協会活動につきご指導をお願いしたいと思います。野村さんの功績は非常に大きいと思います。長い間ボランティアとして熱心に活動して頂き、本当にご苦労様でした。」

※上記全ての役員は無報酬で協会の活動を行っています。 *Todos los directivos colaboran ad honorum.*

総会后、大使公邸サロンで、懇親パーティーが行われた。会員及び関係者120人が出席し、バンドネオンの名手京谷弘司さんとピアノは淡路七穂子さんが演奏した。アルゼンチンワイン、エンパナーダ（ミートパイ）、マトンブレ（牛のあばら肉巻香草オープン焼き）等が出され、和やかな雰囲気のパティーであった。



外務省中南米局石田参事官、友国副会長、ハム大使



京谷氏のバンドネオンと淡路七穂子さんのピアノ

Nuestro calido agradecimiento al Sr. Embajador Alberto Ham y Sra., a todo el cuerpo diplomático y personal de la Embajada y Consulado. Los socios y amigos de la Asociación Nipo-Argentina han disfrutado de un grato momento y esperan repetir este tipo de encuentros que hagan fomentar aun más la amistad y el entendimiento entre los dos países. Nuevamente, ¡MUCHAS GRACIAS!

Asociación NIPO-ARGENTINA Comisión Directiva

+++++

新理事のコメント

(今回新規理事8名が信任されましたので、4名のメッセージを掲載します。他4名は次号に掲載)

石川 浩司 (元日本興行銀行、和光経済研究所副社長)

“この度ご推挙を頂き当協会理事に就任致しました。私は日本興業銀行、和光経済研究所を通じて経済・企業業績の調査業務に従事しておりましたが、アルゼンチン勤務の経験はございません。実は学生時代からタンゴが大好きだったので、会社の上司は「彼を南米にやったら、音楽ばかり聴いていて仕事をしないだろう」と考えたのでしょうか。というわけでアルゼンチンの政治・経済の変遷とタンゴとの関係に格別の興味を抱いております。微力ながら日ア両国の関係を多面的角度から深化するよう協会業務でもお役にたきたいと願っております。よろしくご指導のほどお願い申し上げます。”

宍戸 和郎 (JBIC 国際協力銀行-中南米・カリブ諸国担当次長)

“約30年の間をおいて、現地で2度暮しました。父親の赴任について行ったのと、自分自身の赴任ですが、要するに親子2代のアルゼンチン駐在です。日本にいるときも中南米担当の営業が長く、アルゼンチン関係では、ブエノスの地下鉄B号線走る丸の内線中古車両の輸出金融や95年経済危機時の緊急支援融資などを手掛けました。宜しくお願致します。”

京谷 弘司 (作曲家、バンドネオン奏者)

“バンドネオンに触れ始めて既に40余年、他に何の経験もない私が、このたび日本アルゼンチン協会の理事をさせていただくことになりました。そろそろ社会的にお役に立てることがあればと考えていたところでした。私に出来ることといえばアルゼンチンの偉大な文化、アルゼンチン・タンゴの普及に一層の努力をすることですが、これからは協会の皆様のご指導のもとで理事の仕事も勤めさせていただきます。よろしくお願します。”

守戸 一清 (元三井物産常務取締役、東邦物産(株)名誉顧問)

“この度中野常務理事の熱意溢れるご要請により老骨甚だ微力ながら、僭越を省みず理事に就任させて頂くこととなり誠に光栄に存じます。私にとりアルゼンチンは50年代後半4年間のたまゆらの青春時代、商社マンとして育かれた懐かしい揺り籠であり、70年代の5年間の支店長時代は国際感覚を磨き自らを鍛えぬいた忘れ難き厳しい檜舞台でもあります。目下残念ながら日本同様、アルゼンチンも逆境に喘いでいますが、この様な時にこそ両国の伝統あるアミーゴとしての絆を強める努力をすべきではないかと痛感します。

A pesar de todo,長島語録風に申せば「アルゼンチンへのCARIÑOは不滅です。”

La Asociación NIPO-ARGENTINA fue creada en 1930 por el príncipe Takamatsu como una entidad para promover la amistad entre ambos países. En 1957 obtiene la personería jurídica como Asociación Civil de Interés Público sin Fines de Lucro, bajo el reconocimiento institucional del Ministerio de Asuntos Exteriores de Japón. La Asociación cuenta actualmente con casi 30 socios corporativos, 70 socios plenos y 140 socios colaboradores. Se autofinancia y no depende de ningún subsidio público.

TOYOTA ARGENTINAが新工場を建設

ブエノスアイレス市から北部70キロにあるCampanaという町で、現在同社の工場があるZarateから20キロの場所。6ヘクタールの敷地で1千100万ドルの投資を予定。

現地のメディアでもかなり大きく報道されたが、トヨタ自動車は、現地の生産規模を拡大するためにもう一つの工場を建設すると発表した。8月頃に工事がスタートするとされているが、来年の2月頃ぐらいには稼働体制に入り、Mercosur（南米南部共同市場）諸国向けの車を製造することが主な目的である。現在の生産を

補強する形で工場ではシートやドア等パーツを製造するようである。

製造される新モデルは、INBという車で現在のHiluxシリーズに変わるモデルだと報道されているが、アルゼンチン国内とMercosurが販売先である。現在の1万5千台が6万台になり、二つの工場で1,800人の雇用確保になると、会社役員からのコメントも紹介されている。

ブエノスアイレス州のソラ州知事も、「この投資は地域に130人分の雇用を創出し、初期の段階は年間230万ドルの売上が見込まれており、いずれは増えて行くであろう」とトヨタの試みを大変歓迎している。

日本のトヨタで勤務、研修をしたMARTIN氏をインタビュー

トヨタ・アルヘンティーナから企業内転勤で2年間日本のトヨタで勤務したMartín Rodriguezさんは先月末帰国したが、日本での体験について話してくれた。



—どのような目的で日本に派遣されたのですか。

私は、1996年の6月にTOYOTA ARGENTINAに就職しました。企画部や営業部に配属され、商品企画、販売計画、市場調査等をしてきましたが、ICT（Intra Company Transferee）という企業内転勤プログラムで2年前日本に来ることが出来たのです。新婚でしたので、妻のDeniseと一緒に来ました。

トヨタは、アルゼンチンだけではなく、ブラジルにも大きな生産拠点を持っていますので、私の日本での任務は、こうした国での生産戦略やラテンアメリカ全体の市場を日本から検討することでした。

—この日本で何が一番大変でしたか。

とても有意義な体験でしたが、やはり、日本から見る我が国や地域は文化的な違いがありますので、随分異なっていると痛感しました。人の考え方が違いますので、ものの見方や期待も違ってきます。

日本では「コンセンサスによる行動や戦略」というのが重視されますが、この「コンセンサス」がどのように構築されるのか、はじめは全く理解できませんでした。しかし理解できた段階でも、自分はラテンアメリカの現実や、人の考え方を分かっていますので、どのように、そうした考えを実行に移すのかと戸惑いを感じる場面もありました。我々が住んでいるアルゼンチンでもそうですが、実態さえ把握できないぐらい良くも悪くも速いスピードで変わっているのです。こうした変化に対応できない「コンセンサス」は意味があるのかと思ってしまったこともあります。でも、いかなる市場であっても長期の計画や戦略を立てるには「コンセンサス」というのは重要だということ学びました。

—日本ではどこか旅行することはできましたか。

仕事で来ましたのであまりゆっくり日本の観光名所などをめぐることが出来ませんでした。国内では京都、広島に行きました。後は、週末を利用し、この関東近辺の日光、横浜、箱根を妻とエンジョイしました。

—日本は不況ですが、アルゼンチンの不況とは随分違いますね。

話になりませんね。日本の失業率が6%台になってきているといいますが、一般庶民の生活はそう悪くなっているようには見えませんでした。しかし、これからの日本はいろいろ覚悟して対応しないとダメだと思います。私は専門家ではありませんが、政治の方向性というのが見えないのです。どういう国になりたいのかというメッセージ、又はビジョンのようなものがないような気がします。日本は先進国で世界に大きな影響力をもっている国ですので、方向性を定めないと、日本とどのように接すれば良いのか世界は分からないと思うのです。いずれにしても、アルゼンチンよりは基礎もしっかりしていますし、付加価値の高い商品を作る能力はすごいと思います。ただ、今の状況がいつまで続くか、このままで日本は経済大国として維持できるのかという懸念は私にもあります。良い方向に軌道修正することを願っています。

※Martínさんは、現在31歳です。ブエノスアイレスのカトリック大学で経営学を専攻し、95年に卒業した。帰国後は、ブラジルに転勤になるかも知れないと話していたが、久しぶりに家族と共に美味しいasado（亜国風バーベキュー）が食べたいと言って帰国した。

聞き手：アルベルト松本理事、帰国直前、新宿のホテルにて。

NKK TubesCEOのMarcelo Ramos氏をインタビュー

NKK Tubes-Tenaris GROUP（エヌケーケーシームレス鉄管株式会社）は、アルゼンチン企業としてはじめて本格的に日本に進出し、日本の企業と合弁会社を設立し、アジア市場を目的に生産活動を行っているアルゼンチン資本の企業である。日本では初めての試みであり、今月から当協会の「法人会員」でもある。2001年10月に就任したMarcelo Ramos氏は、当社の代表取締役で日本での生活や職場について語ってくれた。



一赴任の時期と家族について

私は2001年の10月にこの川崎に家族と共に赴任したのです。妻、Mar de la Paz、長男Isidoro（12歳）、そして長女Rafaela（11歳）とです。子供達は、インターナショナルスクールに通学していますが、長女はかなり日本語をマスターしましたので我が家の「通訳」みたいなものですね。日本にすごく興味を持ったようです。

一日本での生活や戸惑ったことについて

たしかに大きな変化でした。家族が一緒だったからこそこうした変化や異なった習慣にも対応できたのだと思います。毎日、新しいことを学んでいます。そして、日本食にも慣れ、寿司を始め、ラーメンやそばも大好きです。

また、日本各地を訪れていますが、主に関東地区の山岳地帯で温泉のある旅館が気に入っています。露天風呂も好きになりました。

一会社での日本人スタッフとのコミュニケーションについて

コミュニケーションにつきましては英語でやっています。私を含むと8人のアルゼンチン人（数人の日系人も）がいます。後はみんな日本人です。この業界は特殊で世界でもプレーヤー

（競合相手）が少なくある程度定まっている部分があるのです。そうした環境の中での作業ですが、やはり我々は欧米スタイルのスピーディーな決定プロセスに慣れていたのですが、日本では事前の話し合いや分析過程が長く、決定が遅い仕組みになっています。ただ、どちらが良いという問題ではなく、どちらにもプラスとマイナスの要素があります。双方のコンビネーションがベストだと思います。

一会社の人材育成について

我が社は世界にプラントもあり、多くの営業所があります。日本にやってくるスタッフもいれば、私は出来るだけ多くの日本人も海外に派遣して国際的な感覚や世界の流れを身につけてほしいのです。文化的な違いがあっても、世界規模で活動する多国籍企業としては人材のインテグレーションがなくてはならないのです。

（聞き手：アルベルト松本 理事）

一日本アルゼンチン協会に対して

伝統ある協会に入会できてとても嬉しく思います。協会には、イベントの案内や時にはこの日本に住んでいるアルゼンチン人との交流の場を作ってほしいですね。国が恋しいというわけではないのですが、時には同国人同士でリラックスして話もしたいし、他の人たちの体験も知りたいのです。いろいろな情報交換をしたいのです。協会の活動を楽しみにしています。

（聞き手：アルベルト松本 理事）

※NKK Tubes：アルゼンチンのシデルカが51%の株主、旧NKKのJFEエンジニアリングが49%で構成。2002年度の売上高は約280億円、経常利益は6億4千万円、最終利益は3億6千万円。社員数：600名。Tenaris Group：8社の企業群でなりたっており（カナダ、ブラジル、イタリア、日本、アルゼンチン（SidercaとSiat）、メキシコ、ベネズエラ）、年間売上高3,600億円（南米29%、欧州25%、北米17%、その他）、従業員数14,000名。油井管の取引量では世界の約3割のシェアを誇る。

JICAの活動、アルゼンチンのメディアが高く評価

5月6日付けのLa Nación新聞は紙面2ページにも及ぶ記事でJICA-国際協力事業団のアルゼンチンでの活動を紹介し、技術協力や専門家派遣

の実績等を紹介した。また、ブエノスアイレス大来財団に配属されているシニアボランティアのケースも触れられていた。

亜国に対する90年代の技術協力実績は年間1千5百万ドルから2千万ドルであり、専門家派遣とともに機材供与も行われていると海外からの援助では日本が一番多いと評価し、「Donaciones que se hacen en silencio」あまり目立たず静かに実施している援助事業というタイト

ルで紹介している（事例：国立水研究所-INAには6人の専門家が活動しており、下水道及び産業廃水管理用機材の供与、国立農牧技術院INTAでの共同研究計画等々、ブエノスアイレス州中部のChascomús湖では、日本の専門家が同湖原産の白身魚pejerrey（ペヘレイ）の養殖研究を行っていることも紹介された）。

※事業に対する詳しい情報は、
<http://www.jica.go.jp/argentine/index.html>

「日系人の方々と共に築けたこと」

越宗（こしむね）ゆう子さんは、団体事務という職種で2001年3月から2003年2月までの間、JICAの日系社会青年ボランティアとして、ブエノスアイレス市の日系人団体「CENTRO ARGENTINO NIKKEI」に派遣された。今回は、その2年間を振り返り越宗さんに思い出を執筆して頂いた。



「エセイサ空港に到着した時は、空港周辺の豊かな緑にまず驚かされました。ブエノスアイレス市内には様々なタイプの建物がひしめきあっており、混沌とした街という印象を受けました。香港風のマンション、ニューヨーク風アールデコのビル、マドリッド風、パリ風、各移民がそれぞれ好きなように建てていったからでしょうか。

アルゼンチンに派遣される前にスペインに語学留学して、同じスペイン語圏でありながら、言葉のイントネーションや表現が違うのはとても楽しかったです。

配属先日系センターでの業務は日系人のデータベースをコンピューターに入力する仕事からスタートしました。その後、日系図書室設置に際しての図書データベース作成や、毎日の電話対応、団体が発行するNIKKEI ARGENTINOという月刊新聞の郵便発送や他の日系団体への配布作業等々お手伝いできる事はなんでもさせて頂きました。

団体にとって私が初めてのJICAボランティアでしたので、仕事に関してお互い試行錯誤をしながら二年間が過ぎていきました。

日系センターは若い日系二世、三世が創立した団体です。私が派遣されたときは常勤の事務員はおらず、私が日勤の事務員となり、メンバーはそれぞれの仕事を終えてセンターにやってきました。最初は一人で勤務というのが辛かったですが、日本語講座をメンバーの了解のもとスタートすることで人の出入りも増え、メンバー以外の様々な人がセンターを訪れるようになりました。

日系の方は真面目で控えめな方が多く、最初は色々な人がセンターにやってくるのを何となく不安に思っていました。様々な講座がどんどんスタートして一日に何人もの人が講座を見学に来られたり、日本文化についての質問をしに訪れるようになって、メンバーも知らない人との交流にずいぶん慣れていけたように思います。

JICAから私に与えられた重要な任務は、団体が現地事務員を雇えるようにする事でした。ボランティアはあくまで自転車の補助輪の役目、派遣が突然廃止になっても団体は存続しなければなりません。最初は無理かなと思っていましたが、メンバーと一緒に始めた日本文化講座などに力を入れた結果、たくさんの方が日系センターで日本語や生け花などの日本文化を学びに来られ、二年間で事務員が一人雇えるだけの経費を捻出することができました。帰国前にその希望が叶えられたのは本当にうれしかったです。

さて、アルゼンチンという国は個人主義色の強い国の一つとして大変有名ですが、確かにそうでした。移民国家独特の特色なのでしょう。しかしながら、米国の個人主義とはすこし異なっていました。家族主義を重んじるイタリア、スペインの影響が強く、私の目には「個家族主義」のように映りました。自分の親戚、家族に対する思いは大変強い一方で国や地域に対する協調や助け合いの心は少ない気がしました。家族や友人のことは本当に大切にしていたし、それに対して多くの時間をかけていました。アルゼンチン社会はとても複雑で興味深かったです。二年間の任務はあっという間に終わってしまいました。現地に慣れた頃に帰国という感じです。その間に政変、暴動、通貨切り下げ等、様々な事が起こりました。そのような激動のアルゼンチンで日系の方々は負けずに明るく頑張っていたら嬉しいです。

アルゼンチンには広大で豊かな国土があります。しかし、それを有効に生かす技術や人材が十分に育成されていない。日本にないものを持っているアルゼンチン。そして、アルゼンチンにはないものを持っている日本。遠く離れたこの二つの国を結び、お互いの発展のために活躍できるのは日系の方々だと思います。多くの日系の方々が両国の掛け橋となって益々活躍してほしいと心から願います。」 <http://homepage3.nifty.com/bsas/>

目次 - INDICE

SALTA州副州知事らが大分県を訪問.....	1
ア産の刺身用エビが大手スーパーで.....	1
亜国産レモンとグレープフルーツが 日本のスーパーに陳列.....	2
MATE (マテ) 茶.....	2・3
茨城県長田小学校との70年間の友好関係.....	3
「アルゼンチンはどうして強いのか」 - チーム付きの通訳として.....	3
最新アルゼンチン情勢.....	4・5
「外国法事務弁護士」Dr. Miguel Montoro.....	5・6
スペイン語初級用の教材「¡Hola amigos!」.....	6
自衛艦乗船クルーズ.....	6
総会、新役員、新会長&懇親パーティー.....	7・8
TOYOTA ARGENTINAが新工場を建設.....	9
日本のトヨタで勤務したMartín氏.....	9
NKKTubesのCEO-Marcelo RAMOS氏.....	10
JICAの活動、アルゼンチンのメディアが 高く評価.....	10・11
日系の方々と共に築けたこと.....	11

アルゼンチン国の記念日 (5月～7月)

●5月25日：「5月の革命、又は建国記念日」とされている。1810年、それまでの経緯によってスペイン王制に対して不信感が高まっていたが、ブエノスアイレスのインテリや軍人は建前上スペインへの忠誠心を表明しながらも独自の政府を構築し、独立への第一歩を歩み始める「革命」なのである。

●6月20日：「国旗の日、又はManuel Belgrano將軍追悼の日」である。独立戦争に突入した頃、Belgrano將軍はスペイン軍との戦いに「軍旗」の必要性を訴え、1812年2月27日、パラナ川のRosario沖で初めて「国旗」として掲揚されたのである。それ以来、アルゼンチンの国旗になったのである。6月20日は、同將軍が1820に亡くなった命日である。

●7月9日：「独立記念日」である。1816年、ボリビア等を拠点にしていたスペイン軍を抑えるために北部のTucumánで独立を宣言し、San Martín將軍が率いる解放軍はその後、チリとペルーの独立にも貢献する。

お知らせ

■ ザ・パーティー イン サマー 2003

8月30日(土) 16:30~21:15
横浜グランドインターコンチネンタルホテル 3F
23,000円 (ディナー付) <http://www.dance-uni.com/>
ユニバーサルダンスアカデミー TEL 045-461-6020

■ タンゴ コントラステ～夜のブエノスアイレス～

9月19日～10月13日まで全国各地で公演
タンゴピサロ2003日本公演実行委員会
TEL. 0573-65-2152

■ 小松亮太プロデュース Tango Spirit II

ピクトル・ラバジェン (バンドネオン) を迎えて
10月1日～5日東京・渋谷 シアター・コクーン
コンサートイマジン TEL03-3235-3777

■ ファン・ダリエソ楽団2003 (タンゴ)

10月11日～29日まで全国各地で公演
オフィス・アルファ tel.052-930-4333

■ 中川美亜リサイタル(タンゴ)

10月24日(金)
文京シビック小ホール FAX.052-930-4338

■ ファンホ・ドミンゲス(ギター)

10月中旬来日決定 詳細は未定
ラティーナ TEL 03-5768-5588
<http://www.latina.co.jp/>

■ マルタ・アルゲリッチとネルソン・フレイレ (ピアノ)

10月14日～10月28日まで
東京・神戸・鎌倉・札幌・名古屋・京都・名古屋・仙台で
公演 梶本音楽事務所 TEL 03-3289-9999

■ メルセデス・ソーサアジアツアーは本人体調不良

のため中止に。9月2日(火)の東京・すみだトリフォニーホールでのコンサートは中止になりました。

この会報の作成に当たり多くの方々にご協力して頂きました。心から感謝致します。より充実した内容にしたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひ致します。

編集長 松本 J.アルベルト

編集委員：塩見憲一 理事、イレーネ賀集 理事、山下美里 秘書、萩村昌代 委員。

中川美亜のアルゼンチンタンゴ弾き語り

アルゼンチンタンゴ・バー **ダリ**

東京都新宿区荒木町3-5-2 駒ビル1F
Tel: 03-3357-6635 (四谷三丁目駅徒歩5分)
営業時間:18:00～24:00 (土日祝休)
セット料金 4,000円

(チャージ・2ドリンク・おつまみ付)

中川美亜 (V&P) 西澤守 (V&G)

<http://www.mia-n.nu/>

♪ピアノ伴奏でお客さまも歌えます♪



(広告)

(社) 日本アルゼンチン協会 会員募集

日本とアルゼンチンに関係する情報を得る。

文化交流を促進し、イベントに参加する。

アルゼンチンとのつながりを大事な財産にする。

互いの理解を深め、友好関係を育てる。

正会員	：年会費	10,000円	Socio pleno
賛助会員	：年会費	5,000円	Socio colaborador
学生会員	：年会費	3,000円	Socio estudiante
法人会員	：年会費	一口 30,000円	Corporativo

Tel: 03-3501-4684 E-mail: argentina@nifty.com